施設概要

（令和４年４月１日現在）

施設名	開館時間
西白井公民館 （西白井複合センター内）	公民館業務　午前９時～午後９時 児童館業務　午前９時～午後５時 図書室業務　午前9時（閲覧）9時半（貸出）～午後5時 老人憩いの家　午前9時～午後5時 出張所業務　（水・金）８:３０～１２:００ （日）８:３０～１３:００ １４:００～１７:１５

所在地	〒270-1435 白井市清水口１-２-１	併設施設	出張所・児童館・図書室・老人憩いの家・地域包括支援センター
TEL	０４７－４９２－１０１１	FAX	０４７－４０１－０２８２
メール	shiroifukugou@roukyou.gr.jp		
休館日	月曜日・国民の休日・ １２月２９日～翌年１月３日	駐車場	３２台（内２台障害者専用）
職員構成 R２年４月現在	センター長１名　事務職３名　児童厚生員５名　図書司書４名　夜間管理３名 合計　１６名		

貸出施設

１時間あたりの施設使用料（社会教育認定団体は２分の１）

施設名	定員	９：００～２１：００	付帯設備
工芸室	24 名	350 円	工作机4台・椅子30脚・電気炉
調理実習室	36 名	720 円	調理台6台･電子レンジ2台･ガス炊飯器2台等
作法室	40 名	350 円	座卓15台・座布団70枚・将棋
研修室	30 名	350 円	机10台・椅子30脚
視聴覚室	50 名	780 円	机8台・椅子30脚・ピアノ・テレビ等
レクリエーションホール	150 名	970 円	移動ステージ・卓球台・バトミントンネット・バスケットゴール等

貸し出し可能備品	ビデオ・机・椅子（備品の施設外貸し出し不可）

令和3年度　公民館等団体別利用状況
（西白井公民館）

種別	青少年		成人		女性		高齢者		その他		個人		合計	
月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	50	767	239	2,219	14	100	24	244	9	101	33	213	369	3,644
5	52	721	225	2,137	6	46	24	206	4	18	29	116	340	3,244
6	50	804	254	2,505	6	42	21	171	12	75	29	112	372	3,709
7	56	780	263	2,415	9	79	19	187	19	215	34	151	400	3,827
8	46	592	197	1,775	10	97	19	184	23	735	24	104	319	3,487
9	61	887	196	1,886	8	77	21	207	11	477	30	178	327	3,712
10	67	779	243	2,270	12	136	22	230	16	450	29	131	389	3,996
11	60	846	218	2,105	11	114	18	203	24	956	19	79	350	4,303
12	66	1,051	208	2,022	18	178	18	221	16	668	21	94	347	4,234
1	47	605	211	1,847	8	68	18	185	8	282	24	87	316	3,074
2	48	695	194	1,629	6	43	15	124	5	58	18	58	286	2,607
3	72	1,060	243	2,350	5	43	18	192	9	85	15	75	362	3,805
合計	675	9,587	2,691	25,160	113	1,023	237	2,354	156	4,120	305	1,398	4,177	43,642

令和3年度部屋別利用件数・利用人数

部屋名	利用件数（件）	利用人数（人）	年間利用率（%）
工芸室	444	2,725	32.4
調理実習室	13	65	1.6
研修室	689	5,526	45.3
作法室	491	3,912	37.5
視聴覚室	848	8,124	49.7
レクホール	1,692	23,290	92.1
合　　計	4,177	43,642	

令和３年度　西白井公民館　事業報告

●白井市が目指す将来像（第５次総合計画基本構想から）

「ときめきと　みどりあふれる　快活都市」

●目指す将来像を実現するために（第５次総合計画後期基本計画から抜粋）

戦略１「若い世代定住プロジェクト」

・ゆとりある暮らしを感じるまちづくり

・働く場を生み出すまちづくり

・子育てしたくなるまちづくり

戦略２「みどり活用プロジェクト」

・「かかわれる農」のまちづくり

・みどりを育み活かすまちづくり

戦略３「拠点創造プロジェクト」

・都市拠点がにぎわうまちづくり

・地域拠点でつながる健康なまちづくり

・拠点を結ぶまちづくり

これらのプロジェクト（まちづくり）を実現するため、①「つどう」②「まなぶ」③「むすぶ」④「つくる」⑤「さがす」の公民館の代表的な５つの機能を生かした事業展開を行いました。

１．運営方針

（１）全体の運営方針

・地域で活躍できる人材を発掘し、社会教育活動を市民の力で推進する

・公民館利用者に限らず、自治会・学校・商店などと関係を結び、相互に支え合うことのできるネットワークを創る

・新型コロナウイルス対策によって停滞した活動に活気を取り戻す

（２）分野別方針

	運営目標
家庭教育 （１）	①同世代の子どもを持つ保護者同士の交友関係を広げ、お互いに支え会える環境を作る ②子育ての支援を行い、地域全体で子育てを支える仕組みを作る ③子育て中に直面する問題を解決する手助けとなる知識を学ぶ
青少年教育 （２）	①性質の異なる人との交流を通して個性を認め合う人物となる ②様々な学習・活動に取り組むことで、学ぶことの楽しさを実感する ③自身の考えを伝える力を身に着け、コミュニケーション能力を高める
成人教育 （３）	①自己発見・自己実現のできる学習の場を提供する ②学びを実践に活かし、地域のリーダーとなる人物を育てる ③話し合いを通じて、地域の抱える問題の解決方法を考える

団体育成 （４）	①地域で活躍する人材と協力し活動の発展や新たな活動の創出を促す ②住民同士が交流し、活動に取り組むための仲間づくりの場を提供する ③新型コロナウイルス対策により活動が停滞した団体をサポートし、より良い活動状態を目指す

（３）令和３年度　重点に実施した項目（講座・事業など）

・青少年親子で参加する講座を開催し、子育て世代に公民館への興味を持ってもらうようにした
・withコロナ、afterコロナ時代に対応できる社会教育活動のあり方を考案した

２．公民館　講座等実施報告

（１）学習講座事業

対象	学級・講座名		回数	参加人数
家庭教育 （１）	おやこ広場	①②③	10 回	延べ１０６組２５３ 人
青少年教育 （２）	親子で！科学体験教室	①②	2 回	延べ１８組３５ 人
	アートで遊ぼう	①②③	1 回	7 人
	子ども将棋教室	①②③	9 回	18 人
	夏休み子ども工作教室	①②	1 回	20 人
	書初め練習会	①②	1 回	感染症予防対策のため中止
	自由研究相談会 (書初め練習会の代替)		1 回	９組１６ 人
	親子プログラミング		1 回	６組１２ 人
	親子でハンドメイド		回	５組１０ 人
成人教育 （３）	男女共同参画事業　エンディングノートを書いてみよう	①②③	1 回	23 人
	初心者のためのスマホ講座	①	2 回	延べ３０ 人
	しろいみりょく発見！ ～わくわく歴史探究～	①③	2 回	延べ２８ 人
	手しごと倶楽部	①②	3 回	延べ１４ 人
	シニアのための健康講座	①	1 回	感染症予防対策のため中止
	感染症の時代に生きる(シニアのための健康講座の代替)		1 回	11 人
団体育成 （４）	施設予約システム講座	①②③	3 回	6 人

（２）講座以外に行った事業

・公民館利用者連絡協議会(感染症予防対策のため中止)
・西白井センターまつりアンケート(公民館利用者連絡協議会の代替)
・多目的室利用者連絡協議会(感染症予防対策のため中止)
・多目的室利用者アンケート(多目的室利用者連絡協議会の代替)
・西白井複合センターまつり(感染症予防対策のため中止)
・団体活動撮影会（西白井複合センターまつりの代替）
・ともしびの夕べin白井
・レクホール開放
・夏休みスペシャルスタディ

（３）情報の提供

・ポスター掲示（自館・他館・掲示板他）
・広報しろいへの掲載
・ホームページへの掲載
・ブログへの掲載
・ミニコミ誌の活用
・SNSの活用

（４）施設の提供

・生涯学習の場として、団体・サークルへの施設の貸出
・市民活動発表の場として、ロビーの貸出（作品等の展示）
・サロン開催や市民活動の場として、多目的室の貸出

（５）「withコロナ」「afterコロナ」時代に向けた対応

・定期的な館内の消毒と換気の実施
・講座・施設利用等で人が密集する可能性がある場合、予約制を導入
・各部屋の定員を従来の２分の１以下に設定
・施設利用者に名簿とチェックリストへの記入を依頼

講座・学習プログラム

講座名	おやこ広場		
対　象	乳幼児親子		
募集人数	延べ７０組１４０人	参加人数	延べ１０６組２５３人

事業の課題と目標

課　題

・新型コロナウイルスによる新しい生活様式の中で、楽しく遊べる機会が減っている。

目　標

・各回テーマを決めて、季節を感じる製作物を作成する。

・コロナ疲れの保護者の方にリラックスしてもらう。

学習期間	令和３年４月～令和４年３月	回数	１０回
学習場所	遊戯室		

予　算	総額：　0　円		決　算	総額：　0　円
	※うち参加者負担金　0　円			※うち参加者負担金　0　円
	内訳：　講師料　0　円			内訳：　講師料　0　円
	その他事業費　0　円			その他事業費　0　円
講　師	児童館職員			

事業参加者への配慮等

・換気や消毒、人数制限を徹底し、不安をなくす。

・１組ずつ制作をしてもらい、その都度アルコール消毒をしてもらう。

・道具を個別に用意し、１組終わるごとにアルコール消毒をする。

事業の成果（課題や目標に対して）

・三密を避けるため、通常１日でおこなっていた事業を１週間にわたっておこなった。

・１組ずつおこなったので、職員と親子が親密に関わることができた。

・親子でコミュニケーションをとりながら、季節を感じる製作物等を楽しく作ることができた。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	4月13 ～15日	こいのぼり製作 参加人数　１４組　３１人	児童館職員	季節の行事に対しての、もの作りを楽しむ。
2	5月20日, 21日,28日	手がたでアート 参加人数　２０組　４３人	児童館職員	季節の行事に対しての、もの作りを楽しむ。
3	6月17日, 20日	ゆらゆらかたつむり 参加人数　１４組　３０人	児童館職員	季節の行事に対しての、もの作りを楽しむ。
4	7月15日	ちぎり絵遊び 参加人数　７組　１６人	児童館職員	季節の行事に対しての、もの作りを楽しむ。
5	9月16日	敬老のコースター作り 参加人数　７組　１４人	児童館職員	季節の行事に対しての、もの作りを楽しむ。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
6	10月21 ～24日	ハロウィーンおめん作り 参加人数　１６組　３５人	児童館職員	季節の行事に対しての、もの作りを楽しむ。
7	11月18 ～24日	クリスマス製作 参加人数　１８組　３８人	児童館職員	季節の行事に対しての、もの作りを楽しむ。
8	12月16日	たこ作り 参加人数　3組　７人	児童館職員	季節の行事に対しての、もの作りを楽しむ。
9	1月20 ～21日	おにのおめん作り 参加人数　１３組　２６人	児童館職員	季節の行事に対しての、もの作りを楽しむ。
10	2月17日	糸で動くおもちゃ作り 参加人数　１１組　２４人	児童館職員	季節の行事に対しての、もの作りを楽しむ。

講座・学習プログラム

講座名	親子で！科学体験教室		
対　象	小学生とその保護者		
募集人数	延べ１４組２８人	参加人数	延べ１８組３５人

事業の課題と目標

課　題

・コロナ禍の中授業時間などで直接的な実験を行う機会が失われがちである。

・科学学習に興味を持つが機会がない子どもたちがいる。

目　標

・身近な材料を使った実験や、見ていて楽しい仕掛けのある実験を行うことで、科学に対する興味を高められるようにする。

・家庭でも科学について触れることのできる題材を提供する。

学習期間	令和３年７月～１２月	回数	2回
学習場所	多目的室		

予　算			決　算		
総額：	15,366	円	総額：	17,576	円
※うち参加者負担金	4,200	円	※うち参加者負担金	5,000	円
内訳：講師料	10,000	円	内訳：講師料	10,000	円
その他事業費	5,366	円	その他事業費	7,576	円

講　師	つくばエキスポセンター講師　加地浩成さん

事業参加者への配慮等

・実参加児童に加え保護者の参加もあり大人数になる為、テーブルや椅子等を状況に応じて準備する。

・一定の間隔をあけ、換気などを十分にする。

事業の成果（課題や目標に対して）

・科学は身近にあることを体験してもらった。

・家庭でもできるように、身近なものを対象に観察をした。

備　考

・７月の講座は参加希望者多数のため、午前と午後に分けて講座を開催した。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	7月25日	「顕微鏡でミクロの世界を観察しよう」 スマホにルーペを装着した顕微鏡での観察。 光学顕微鏡を使った観察。 『ちょこっとサイエンス』にて親子で楽しめる科学の知識でペッドボトルの中に雲を作成。 募集人数　７組　１４人 参加人数　１２組　２３人 自己負担金　３，６００円	加地先生	身近なものを観察し、科学は身近にあることを実感した。
2	12月12日	「牛乳パックで紙すきしおりを作ろう」 牛乳パックからパルプを取り出して、すき枠に流し込み、はがき大の紙を作成し、作った紙を乾燥させてから半分に切り、アボカドの液に１５分漬けて草木染めのしおりを完成。 募集人数　７組　１４人 参加人数　６組　１２人 自己負担金　１，４００円	加地先生	SDGsについての試みで、紙すきには牛乳パックを使い、染め液にはアボカドの種と皮を煮出して作った液を使用した。

講座・学習プログラム

講座名	アートで遊ぼう		
対　象	小学生		
募集人数	７人	参加人数	７人

事業の課題と目標

課　題

・アート的な側面からの表現力や想像力を養う場が少ない。

目　標

・個性を引き出し作品に投影させる。

・アートを通じて新たに興味関心が持てる分野へのきっかけ作りをする。

学習期間	令和３年８月	回数	1回
学習場所	研修室、調理実習室		

予　算	総額：　0　円 ※うち参加者負担金　１５０円×７人 内訳：講師料　0　円 その他事業費　0　円	決　算	総額：　0　円 ※うち参加者負担金　１５０円×７人 内訳：講師料　0　円 その他事業費　0　円
講　師	未定		

事業参加者への配慮等

・難しい箇所は援助しながら一緒に行う。

・子ども達の考えを作品に出せるよう配慮する。

・コロナ対策のための換気、消毒に努める。

事業の成果（課題や目標に対して）

・一人一人が工夫しながら、個性的な作品を完成させることができた。

・染め上がった自分の作品に満足し、達成感を味わってもらえた。

備　考

・材料であるハンカチの布と焼きミョウバンは、平成３１年度に購入した。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	8月24日	草木染め 玉ねぎの皮と枇杷の葉を煮出して、染め物をした。 参加者　７人	児童館職員	子どもたちにアート的な側面から様々な体験をしてもらい、興味や関心をもってもらう。

講座・学習プログラム

講座名	夏休み子ども将棋教室		
対　象	小学生、中学生		
募集人数	１５人	参加人数	１８人

事業の課題と目標

課　題

・将棋を学びたい子どもの居場所づくりと、将棋を知ってもらいたい大人の多世代交流をする場が少ない。

目　標

・学ぶ楽しさを知るとともに社会性を身に着ける。

・地域のつながりを深め、将棋という文化の普及と伝承に努める。

学習期間	令和３年７月～８月	回数	９回
学習場所	作法室		

予　算	総額：	1,000　円	決　算	総額：　1,135　円
	※うち参加者負担金	0　円		※うち参加者負担金　0　円
	内訳：　講師料	0　円		内訳：　講師料　0　円
	その他事業費	1,000　円		その他事業費　1,135　円
講　師	白井将棋愛好会			

事業参加者への配慮等

・暑いので空調管理に気を付けながら、コロナ対策の換気につとめる。

・手が空いている児童の相手をする。

・使用した道具類はアルコール消毒する。

事業の成果（課題や目標に対して）

・対局前後の挨拶等の礼儀・作法を将棋を通じて学ぶことができた。

・家族や知人としか対局したことがない児童は、将棋の世界の視野が広がった。

・先生の棋力審査により、最終日に認定証をもらい、向上心や達成感を味わうことができた。

備　考

・白井将棋愛好会との共催事業

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	7月24日	オリエンテーション 将棋の歴史と礼儀・作法の説明 指導対局 参加人数　17人	白井将棋愛好会	将棋への理解とその楽しさを知ってもらう。 多世代交流を深める。
2	7月25日	手筋・駒落ち定石・詰将棋などの指導対局 子どもたち同士の対局 参加人数　11人	白井将棋愛好会	将棋への理解とその楽しさを知ってもらう。 多世代交流を深める。
3	7月31日	手筋・駒落ち定石・詰将棋などの指導対局 子どもたち同士の対局 参加人数　7人	白井将棋愛好会	将棋への理解とその楽しさを知ってもらう。 多世代交流を深める。
4	8月1日	手筋・駒落ち定石・詰将棋などの指導対局 子どもたち同士の対局 参加人数　10人	白井将棋愛好会	将棋への理解とその楽しさを知ってもらう。 多世代交流を深める。
5	8月7日	手筋・駒落ち定石・詰将棋などの指導対局 子どもたち同士の対局 参加人数　11人	白井将棋愛好会	将棋への理解とその楽しさを知ってもらう。 多世代交流を深める。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
6	8月14日	手筋・駒落ち定石・詰将棋などの指導対局 子どもたち同士の対局 参加人数　5人	白井将棋愛好会	将棋への理解とその楽しさを知ってもらう。 多世代交流を深める。
7	8月15日	手筋・駒落ち定石・詰将棋などの指導対局 子どもたち同士の対局 参加人数　10人	白井将棋愛好会	将棋への理解とその楽しさを知ってもらう。 多世代交流を深める。
8	8月21日	手筋・駒落ち定石・詰将棋などの指導対局 子どもたち同士の対局 参加人数　11人	白井将棋愛好会	将棋への理解とその楽しさを知ってもらう。 多世代交流を深める。
9	8月22日	修了式 参加賞などの配布、記念撮影 参加人数　14人	白井将棋愛好会	将棋への理解とその楽しさを知ってもらう。 多世代交流を深める。

講座・学習プログラム

講座名	夏休み子ども工作教室		
対　象	小学３～６年生		
募集人数	10人	参加人数	20人

事業の課題と目標

課　題

・時間をかけた工作に、集中力が保てない子や難しいと感じている子どもたちがいる。

目　標

・いつもとは異なる複雑な工作に挑戦し、一つの物を作り上げる達成感、楽しさを実感してもらう。

学習期間	令和３年７月	回数	１回
学習場所	工芸室		

予　算	総額：　9,000　円 ※うち参加者負担金　４００円×１０人 内訳：講師料　5,000　円 材料費他　4,000　円	決　算	総額：　16,240　円 ※うち参加者負担金　４００円×２０人 内訳：講師料　5,000　円 材料費他　11,240　円
講　師	おもちゃ病院　近藤雅昭さん		

事業参加者への配慮等

・講師の補助をする。

・安全に楽しく工作ができるように配慮する。

・使用した道具類はアルコール消毒する。

事業の成果（課題や目標に対して）

・作りが複雑だったが、ボランティアの大学生に協力してもらい、全員が作品を完成させることができた。

・いろいろな道具を使って、一つの作品を完成させる喜びを味わってもらえた。

備　考

・参加希望者多数のため、午前と午後に分けて講座を開催した。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	7月30日	磁石を使ったからくり工作 「ピョンピョンゆかいな花畑」を作ろう 参加人数　２０人	近藤先生	複雑な工作に挑戦し、一つのものを作り上げる達成感、楽しさを実感してもらう。

講座・学習プログラム

講座名	書初め練習会		
対　象	小学生		
募集人数	20人	参加人数	

事業の課題と目標

課　題

・小学生の冬休みの宿題として、書初めがあるが、どのように書いたら良いのかわからないという児童がいる。

・地域住民と子どもたちの交流する場が少ない。

目　標

・普段から書道に取り組んでいるサークルの講師や会員の指導の元、書道に対する心構えを学ぶ。

学習期間	令和3年12月	回数	1回
学習場所	未定		

予　算	総額：　0　円 ※うち参加者負担金　0　円 内訳：講師料　0　円 材料費　0　円	決　算	総額：　0　円 ※うち参加者負担金　0　円 内訳：講師料　0　円 その他事業費　0　円
講　師	親和会　書道部		

事業参加者への配慮等

・参加者が過ごしやすい雰囲気をつくる。

・講師の先生方が活動しやすい環境を整える。

事業の成果（課題や目標に対して）

備　考

・感染症予防対策のため中止

講座・学習プログラム

講座名	夏休み自由研究相談会		
対　象	小中学生と保護者		
募集人数	１０組２０人	参加人数	９組１６人

事業の課題と目標

課　題

・子どもが一人で自由研究の計画を立てることはむずかしいが、教えてくれる場所がない。

目　標

・夏休み前に講座をおこなうことにより、児童、生徒に、取り組む意欲を持ってもらう。

学習期間	令和３年７月	回数	１回
学習場所	研修室		

予　算	総額：　5,000　円 ※うち参加者負担金　0　円 内訳：講師料　5,000　円 その他事業費　0　円	決　算	総額：　5,236　円 ※うち参加者負担金　0　円 内訳：講師料　5,000　円 その他事業費　236　円
講　師	船橋市立丸山小学校　小林雅也先生		

事業参加者への配慮等

・消毒、換気を徹底し、休憩時間も設けた。

・低学年の児童にもわかるように説明した。

事業の成果（課題や目標に対して）

・参加者多数で、有意義な時間が過ごせた。

・児童、生徒はもちろん、保護者の方々にも自由研究の取り組み方がわかってよかったとの言葉をいただいた。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	7月18日	自由研究への取り組み方の説明 過去の研究作品の閲覧 参加人数　９組１６人	小林先生	これまでに出品された自由研究の作品や書籍からヒントを得て、夏休みの早い時期に自由研究の課題や取り組み方法を考えてもらう。

講座・学習プログラム

講座名	親子でプログラミング体験		
対　象	小学生と保護者		
募集人数	２０組４０人	参加人数	６組１２人

事業の課題と目標

課　題

・小学校でプログラミング教育が必修化されたが、体系が整っていない。

・プログラミングについて保護者が十分に理解できていない。

目　標

・子どもたちにとって、楽しくわかりやすいアプリを使ってプログラミングを学ぶ。

・子どもと保護者が一緒にプログラミングを学ぶことで今後もさらに学習していきやすいようにする。

学習期間	令和３年１２月	回数	１回
学習場所	視聴覚室		

予　算			決　算		
	総額：	0　円		総額：	0　円
	※うち参加者負担金	0　円		※うち参加者負担金	0　円
	内訳：　講師料	0　円		内訳：　講師料	0　円
	その他事業費	0　円		その他事業費	0　円

講　師	ソフトバンクスマートフォンアドバイザー

事業参加者への配慮等

・三密にならないよう、間隔を保った机の配置にする

・楽しい雰囲気を保って学習できるよう声かけをする

事業の成果（課題や目標に対して）

・参加人数はやや少なかったが、皆楽しくアプリづくりに取り組んでくれた

・最後には自由な発想で制作されたアプリをそれぞれ発表してもらった

・広報活動が充実するよう、職員もプログラミングへの理解を深める必要があると感じた

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	12月11日	タブレット用アプリ「あぷりつくーる」を使ってプログラミングの体験をする。午前に低学年の部、午後に高学年の部を開催。 参加人数　６組１２人	ソフトバンク スマートフォン アドバイザー	楽しくプログラミングについて学ぶ

講座・学習プログラム

講座名	親子でハンドメイド		
対　象	市内在住の小学３年生以上と保護者		
募集人数	６組１２人	参加人数	５組１０人

事業の課題と目標

課　題

・保護者と幼児の講座はたくさんあるが、保護者と小学生の講座は少ない。

・親子で何かを作る機会が少ない。

目　標

・親子で協力して何かを作成し、絆をさらに深める。

・講座で体験した経験を、帰ってからも自宅でまたやりたいと思えるものにする。

学習期間	令和４年２月	回数	１回
学習場所	多目的室		

予　算	総額：	8,000　円	決　算	総額：	7,502　円
	※うち参加者負担金	4,200　円		※うち参加者負担金	4,900　円
	内訳：　講師料	0　円		内訳：　講師料	0　円
	その他事業費	8,000　円		その他事業費	7,502　円
講　師	西白井複合センター職員				

事業参加者への配慮等

・３密にならないようにし、作業しやすい環境を整える。

・参加者に分かりやすいよう手元をカメラで映して説明する。

事業の成果（課題や目標に対して）

・新型コロナウイルスの影響で当日キャンセルが多かったが後日材料を配布して自宅で制作できるようにした。

・長時間の参加に不安を感じる方には作り方を学んだ後、自宅で制作してもらうようにした。

・楽しかった、コロナで外出できないのでこのような講座がもっとあると嬉しいという意見をいただいた。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	2月20日	ちりめん根付・仲良しインコ キットを使い、スクリーンでリアルタイムで作り方を教えながら、みんなで作成した。 参加人数　５組１０人	西白井 複合センター 職員	・親子で一緒に同じものを作成することで絆を深める。 ・やったことのない物を手作りすることで、子どもたちの経験作りに役立てる。 ・家に帰ってからも話のきっかけになる講座にする。

講座・学習プログラム

講座名	男女共同参画自業　エンディングノートを書いてみよう		
対　象	市内在住者		
募集人数	２０人	参加人数	２３人

事業の課題と目標

課　題

・家族同士、どのような家庭を築きたいか改めて話し合う機会がない。

・急な家族の逝去により、故人の遺志が確認できないことがある。

目　標

・エンディングノートを書くことを通じて、家族がどのような思いを抱いているか知る機会を作る。

・亡くなったときの対応を決めておくことで、相続等のトラブルを回避する。

学習期間	令和４年２月	回数	1回
学習場所	視聴覚室		

予　算	総額：	0　円	決　算	総額：　0　円
	※うち参加者負担金	0　円		※うち参加者負担金　0　円
	内訳：　講師料	0　円		内訳：　講師料　0　円
	その他事業費	0　円		その他事業費　0　円
講　師	千葉県金融広報委員会　竹元泰子さん			

事業参加者への配慮等

・三密にならないよう、間隔を保った机の配置にする

・書き込みやすいよう冊子にした資料を配布する

事業の成果（課題や目標に対して）

・受付期間が５日間と短期間であったが、反響が大きく定員を超える応募があった

・講師は社会福祉協議会や法テラス、地域包括支援センターなど、今後の終活に役立つ場所を紹介してくれた

・講師が自身の体験を交えて解説をしてくれ「わかりやすかった」と参加者に好評だった

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	2月24日	エンディングノートを書いてみよう 講師の用意した資料に書き込みをしながら、エンディングノートの書き方を学ぶ。 参加人数　２３人	竹元先生	エンディングノートを書くことを通じて、家族がどのような思いを抱いているか知る機会を作る。

講座・学習プログラム

講座名	初心者のためのスマホ講座		
対　象	市内在住者		
募集人数	延べ３２人	参加人数	延べ３０人

事業の課題と目標

課　題

・スマートフォンの使用に興味があってもうまく使いこなせない方が多い。

・コロナ禍のため、人と人とが直接会ってコミュニケーションを取る機会が減っている。

目　標

・基礎から詳しくスマートフォンの使い方を学ぶ。

・スマートフォンを使いこなすことで、対面以外のコミュニケーション方法を増やす。

学習期間	令和３年１０～１１月	回数	2回
学習場所	多目的室		

予　算	総額：	0　円	決　算	総額：　0　円
	※うち参加者負担金	0　円		※うち参加者負担金　0　円
	内訳：　講師料	0　円		内訳：　講師料　0　円
	その他事業費	0　円		その他事業費　0　円
講　師	ソフトバンクスマートフォンアドバイザー			

事業参加者への配慮等

・三密にならないよう、間隔を保った机の配置にする。

・講座で使用するスマートフォンは講師持ち込みの専用機になることを説明する。

事業の成果（課題や目標に対して）

・参加者が講座に対して望むことがそれぞれ異なっており、目標の設定が難しかった。

・次年度開催する場合はメールの使い方、災害時の活用法など細かい目標設定をしたい。

・数年前と比較して応募人数はやや少なくなったが、引き続き市民からのニーズは高いと感じた。

備　考

・１０月の講座は、平成３１年度に中止したスマホ講座の参加予定者だった方へ、優先的に参加の案内をした。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	10月13日	マップの使い方や音声入力の方法等、スマートフォンの基本的な使い方を学ぶ 募集人数　１６人 参加人数　１４人	ソフトバンク スマートフォン アドバイザー	スマートフォンを使いこなすことで、対面以外のコミュニケーション方法を増やす。
2	11月10日	マップの使い方や音声入力の方法等、スマートフォンの基本的な使い方を学ぶ 募集人数　１６人 参加人数　１６人	ソフトバンク スマートフォン アドバイザー	スマートフォンを使いこなすことで、対面以外のコミュニケーション方法を増やす。

講座・学習プログラム

講座名	白井みりょく発見！～わくわく歴史探究～		
対　象	市民		
募集人数	延べ30人	参加人数	延べ28人

事業の課題と目標

課　題

・身近でありながら白井について知らないことが多い。

・集団で同じことを学習する機会が少ない。

目　標

・講習会や西白井地区周辺を散策することで、白井の歴史や史跡に関する理解を深める。

・集団で同じ体験をすることで、楽しくコミュニケーションを取り合う機会を作る。

・コロナで外に出る機会が少ないので、体を動かす場も兼ねて白井を知ってもらう。

学習期間	令和４年３月	回数	２回
学習場所	多目的室、西白井地区周辺		

予　算	総額：	6,000　円	決　算	総額：　5,508　円
	※うち参加者負担金	4,000　円		※うち参加者負担金　3,800　円
	内訳：　講師料	0　円		内訳：　講師料　0　円
	その他事業費	6,000　円		その他事業費　5,508　円
講　師	しろいふるさとガイドの会　市川善美さん			

事業参加者への配慮等

・室内学習時、感染症予防のため消毒・換気に気を付ける。

・野外学習時、事故やケガなど無いよう周囲をよく確認する。

・万が一車両事故があった時の対応についてよく説明する。

事業の成果（課題や目標に対して）

・住民でも知らなかった白井の歴史を沢山発見できた。今回のような講座をもっとやってほしいとの声があった。

・実際に目で見て体験し、新しい発見や白井の魅力を知ってもらえた。

・団体行動で、初めて会う人たちで楽しく散策出来た。

・一日目、室外の騒音で講義に集中できない人がいた。次回は場所と音響設備などの環境に事前に確認する。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	3月16日	・クイズを解きながら白井を知ろう！ クイズ形式でスクリーンに問題を表示、その後各問題の回答とそれに関連する話を解説。 募集人数　２０人 参加人数　１８人	市川先生 影山先生	自分たちが住んでいる白井市への理解を深める。生い立ちや歴史を楽しく学ぶ。
2	3月23日	・鎌倉殿に献上された名馬のいにしえの地を歩こう！ 西白井地区周辺の遊水地や史跡を巡り、その場所の解説を聞きながら散策した。 募集人数　１０人 参加人数　１０人	市川先生 池川先生 白田先生	１日目で学んだことを思い出しつつ、実際に史跡を巡って自分の目で見て体験してもらう。外に出て自然と触れあったり、体を動かしたりして楽しく白井の歴史を散策する。

講座・学習プログラム

講座名	手しごと倶楽部		
対　象	一般		
募集人数	延べ14人	参加人数	延べ14人

事業の課題と目標

課　題

・今まで体験したことのない新しいことに取り組みたい人が多い。

・作品に取り組み完成させることは達成感を得ることができ生活の活力となるが、１人で作成すると挫折しやすい。

・新型コロナウイルス感染症で疲弊した心を癒したい。

目　標

・家にこもってばかりの方に、少しでも何か発散できる場を作る。

・技術を習得し、作る喜びを得る。

学習期間	令和３年６月～１２月	回数	2回
学習場所	調理室、研修室		

予　算			決　算		
総額：	11,800	円	総額：	18,545	円
※うち参加者負担金	9,800	円	※うち参加者負担金	11,350	円
内訳：講師料	0	円	内訳：講師料	0	円
その他事業費	11,800	円	その他事業費	18,545	円

講　師	西白井複合センター職員

事業参加者への配慮等

・３密にならないようにし、寒いので暖房をつけて作業しやすい環境を整える。

・参加者に分かりやすいよう説明する。

・感染症対策のため、作り方をプロジェクターで映しながら作業した。

事業の成果（課題や目標に対して）

・好評だったので、感染症対策を徹底した上で参加人数の定員を増やした。

・日常から離れて、いつもと違った体験ができた。

・作成後の満足度も高く、綺麗なものを見たり触れたりして心を癒してもらえた。

・かんたん押し絵の講座では、初心者には満足いただけたが、玄人には少し物足りなかったようだ。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	6月29日	・宝石せっけん作り 　調理室にてMPソープと着色料、精油を使い宝石のような石鹸を作成。混ぜた石鹸の液体を電子レンジで加熱し、冷蔵庫で冷やして固め、宝石のようにカッターで切り取り形を作った。 募集人数　６人 参加人数　４人 自己負担金　2,000円	西白井 複合センター 職員	・色の配色やバランスを考えて作ることで脳トレ効果を図る。 ・精油を使って、コロナで疲れた気分を匂いでリフレッシュする。
2	12月22日	・かんたん押し絵『おめでた福寅』作り キットを使った寅の押し絵を作った。作り方をスクリーンに映しながら紹介し、参加者と一緒に押し絵を作った。 募集人数　８人 参加人数　１０人 自己負担金　9,350円	西白井 複合センター 職員	・日本の伝統布を使った細かな手作業で脳を活性化させる。 ・かわいい干支の吊るし物を作り、正月を楽しく過ごすための準備をする。

講座・学習プログラム

講座名	シニアのための健康講座		
対　象	市民		
募集人数	未定	参加人数	

事業の課題と目標

課　題

・健康に生活しようとしても、一人ではどうしたらよいかわからない。

・地域の高齢化が進み、健康について不安を感じる方が多い。

目　標

・健康について同じような悩みを抱える人と関わることで、健康維持のモチベーションを高める。

・健康に生活するための知識を深め、より良い暮らしができるようにする。

学習期間	未定	回数	1回
学習場所	レクホール		

予　算			決　算		
	総額：	0　円		総額：	0　円
	※うち参加者負担金	0　円		※うち参加者負担金	0　円
	内訳：　講師料	0　円		内訳：　講師料	0　円
	その他事業費	0　円		その他事業費	0　円

講　師	

事業参加者への配慮等

・参加者全員が積極的に講座に取り組んでもらえるよう声かけする。

・感染症予防対策を取りながら運動できるようにする。

事業の成果（課題や目標に対して）

備　考

・感染症予防対策のため中止

講座・学習プログラム

講座名	感染症の時代に生きる		
対　象	一般		
募集人数	15人	参加人数	11人

事業の課題と目標

課　題

・コロナ禍にあって、漠然とした不安を抱えて日々を過ごしている方は多い。

・感染症に対する正しい知識を求める人は多いが学習の機会が少ない。

目　標

・感染症をテーマとした映像作品を鑑賞することで、感染症と人の関わりについての知識を深める。

・感想や疑問を話し合うことで、不安な気持ちの原因を明らかにする。

学習期間	令和３年７月	回数	１回
学習場所	視聴覚室		

予　算	総額：　9,840　円 ※うち参加者負担金　２００円×１５人 内訳：講師料　5,000　円 その他事業費　4,840　円	決　算	総額：　10,230　円 ※うち参加者負担金　２００円×１１人 内訳：講師料　5,000　円 その他事業費　5,230　円
講　師	山口豊寧さん、遠藤大誠さん（PC操作）		

事業参加者への配慮等

・市の感染症ガイドラインに沿って検温、消毒、小まめな換気（休憩）を実施する。

・三密にならないように椅子を配置する。

・質疑応答の時間を取り参加者が意見を伝えたり、疑問を解消したりできるようにする。

事業の成果（課題や目標に対して）

・講師の作品『Living with AIDS ～タイが語るもの』を上映後作品解説を行うとともに感染症の歴史を学んだ。

・感染症をめぐる文化状況や社会通念の変化、環境破壊が遠因となる感染症の流行の話には深く考えさせられた。

・感染症が古代からあったことに驚いた、幅広い視野からの説明で参考になった等の意見を頂いた。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	7月10日	講師のドキュメンタリー映画作品『Living with AIDS～タイが語るもの』上映と作品解説・感染症の歴史等の解説。 参加人数　１１人	山口先生	

講座・学習プログラム

講座名	市施設予約システム講座～スマホバージョン～		
対　象	一般		
募集人数	8 人	参加人数	6 人

事業の課題と目標

課　題

・コロナ禍により、対面に変わってスマートフォンを使用する機会が増えたが使い方が分からない人が多い。

・施設予約システムを利用する際、直接公民館に来て職員に聞きながら予約する人が多い。

目　標

・公民館予約を取る方法を通じて、スマートフォンの使い方の知識を深める。

・公民館に来なくても自分で予約システムを使えるようにする。

学習期間	令和３年９月	回数	３回
学習場所	研修室		

予　算	総額：　0　円 ※うち参加者負担金　0　円 内訳：講師料　0　円 その他事業費　0　円	決　算	総額：　0　円 ※うち参加者負担金　0　円 内訳：講師料　0　円 その他事業費　0　円
講　師	西白井複合センター職員		

事業参加者への配慮等

・市の感染症予防ガイドラインに沿って検温、消毒、小まめな換気（休憩）を実施する。

・密にならないよう椅子を配置する。

事業の成果（課題や目標に対して）

・公民館予約システムのスケジュールが把握できるよう、複数回に渡って講座を実施した。

・資料を配布し、予約システムの申し込みの仕組みや予約時期などを解説・実践した。

・参加者は皆、自分自身で公民館予約をできるようになった。

備　考

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	講　師	事業のねらい
1	9月8日	・予約システム利用方法の確認 ・予約申込みスケジュールの確認 ・抽選予約の実践 参加人数　6 人	センター職員	スマートフォンを活用し、公民館の予約を申し込めるようにする。
2	9月22日	・予約システムの確認 ・抽選結果確認の実践 参加人数　5 人	センター職員	スマートフォンを活用し、公民館の予約を申し込めるようにする。
3	9月28日	・予約システム確認 ・随時予約申込み方法の確認 参加人数　6 人	センター職員	スマートフォンを活用し、公民館の予約を申し込めるようにする。

事業活動

事業名	公民館利用者連絡協議会		
対　象	利用団体		
参加人数			
事業の課題と目標 課　題 ・利用団体がそれぞれどのような活動をしているか知る機会は少ない ・利用団体がどのような意見や疑問を持っているか知る機会は少ない 目　標 ・利用団体が集まることで、団体同士の交流を深める ・利用団体の意見を集約することで、より良い公民館運営を可能にする			
期　間	未定	回　数	1回
場　所	未定		
事業参加者への配慮等 ・多くの利用団体が参加できるよう実施日の設定や広報活動を工夫する。 ・活発な意見交換ができるように声かけをする。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
備　考 ・感染症予防対策のため中止			

事業活動

事業名	西白井複合センターまつりアンケート		
対　象	平成３１年度西白井複合センターまつり参加団体		
参加人数	３３組		
事業の課題と目標 課　題 ・コロナ禍でのセンターまつりの開催について、参加団体がどのように考えているのかわからない。 ・コロナ禍の中で利用団体がどのような活動を行っているか知る機会がない。 目　標 ・センターまつり開催可否について各団体に聞くことで、開催方針の手がかりとする。 ・センターまつりに参加するための準備期間を聞くことで、開催可否決定のタイミングを考える。			
期　間	令和３年５月	回　数	1回
場　所	往復はがき、またはウェブでの回答		
事業参加者への配慮等 ・最近、公民館で活動できていない団体からも回答がもらえるよう、はがきを送る。 ・手軽に回答できるよう、ウェブフォームでの回答も可能にする。 ・手軽に回答できるよう、設問を最小限のものにする。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・３７団体にアンケートを依頼し、３３団体から回答を得た。 ・「状況によってはセンターまつりに参加する」と回答した団体がもっとも多かった。 ・参加できる状況としては「コロナ禍以前の状況になる」、「ワクチン接種が進む」といった意見が多かった。 ・デルタ株、オミクロン株の出現以前にアンケートをしたため、状況の変化により参考にできない点もあった。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	5月11日～25日	センターまつりが開催された場合の参加可否、準備期間等についてのアンケート 回答団体　３３組	センターまつり開催可否について各団体に聞くことで、開催方針の手がかりとする。

事業活動

事業名	多目的室利用者連絡協議会		
対　象	多目的室でボランティア活動を行っている団体		
参加人数			

事業の課題と目標

課　題

・ボランティア団体が意見交換をしたり、情報共有をしたりする機会がない。

・多目的室を利用する団体がどのような意見や疑問を持っているか知る機会は少ない。

目　標

・多目的室を利用する団体がお互いの活動について話すことで交流を図る。

・多目的室利用に関する課題を知ることで、より良い運営を目指す。

期　間	未定	回　数	1回
場　所	未定		

事業参加者への配慮等

・活発な意見交換ができるように声かけをする。

・各団体の活動状況がわかるように紹介をする。

事業の成果（課題や目標に対して）

備　考

・感染症予防対策のため中止

事業活動

事業名	多目的室利用者アンケート		
対　象	多目的室でボランティア活動を行っている団体		
参加人数	3組		
事業の課題と目標 課　題 ・コロナ禍の中でボランティア団体がどのように活動してきたか詳しく知る機会がない。 ・多目的室を利用する団体がどのような意見や疑問を持っているか知る機会は少ない。 目　標 ・コロナ禍でのボランティア団体の活動状況について知ることで、今後の運営の参考とする。 ・多目的室に関する意見を聞くことで、各団体が快適に利用できるようにする。			
期　間	令和4年3月	回　数	1回
場　所	窓口からの配布		
事業参加者への配慮等 ・記述式の設問を多くすることで、より具体的な意見を集められるようにする。 ・現在活動を休止していてアンケートに回答できない団体には電話などで意見を確認する。			
事業の成果（課題や目標に対して） ・コロナ禍のため長期に渡り活動を休止している団体もあり、回答数が少なくなった。 ・楽しく活動できたという団体がある一方、コロナ禍のため思うように活動できなかったという団体もあった。 ・コロナ禍に関係しない利用上の問題についての指摘もあったので、改善に努めていきたい。			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	3月22日 ～31日	今年度の活動状況や利用上の問題点等についてのアンケート 回答団体　3組	今年度の活動に関する意見を聞くことで、各団体が快適に多目的室を利用できるようにする。

事業活動

事業名	第３３回　西白井複合センターまつり		
対　象	一般		
参加人数			
事業の課題と目標 課　題 ・西白井複合センター周辺の地域住民が交流する機会が少ない。 ・当館を利用するサークルがお互いの活動を知る機会が少ない。 目　標 ・高齢者から子どもまで楽しめる催しを開催し、地域住民同士の親睦を深める。 ・各サークルが学習の成果を発表することで、お互いの活動を知り交流を図る。			
期　間	未定	回　数	１回
場　所	西白井複合センター　全館		
事業参加者への配慮等 ・地域住民が進んで来場したくなるような楽しい催しになるようにする。 ・多くの参加者が納得のできる発表を行えるよう話し合い、改変を行う。			
事業の成果（課題や目標に対して）			
備　考 ・感染症予防対策のため中止			

事業活動

事業名	にしふくライブラリー　団体活動撮影会		
対　象	市民団体		
参加人数	３組１９人		
事業の課題と目標 課　題 ・地域で活動する団体が、学習の成果を発表できる機会が少ない ・サークルがお互いの活動を知る機会が少ない 目　標 ・コロナ禍であっても実施可能な方法で活動の成果を発表する機会を作る ・各サークルが発表を行うことで、お互いの活動を知る機会を作る			
期　間	令和４年３月	回　数	２回
場　所	研修室、視聴覚室		
事業参加者への配慮等 ・映像撮影が順調にできるよう参加者の立ち位置等の助言をする ・参賀者が発表を楽しんでもらえるよう、職員も発表を楽しみ感想を告げる			
事業の成果（課題や目標に対して） ・以前発表をした際の映像をすでに持っている団体が多く、参加者は少なかった ・観客がおらず、ビデオカメラが並んだ状態での発表に参加者は緊張した様子だった ・発表を終えると参加者は充足した面持ちで、発表内容について各々感想を言い合っていた			
備　考			

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	3月19日	団体の活動・発表の様子を撮影する 回答団体　１組５人	団体の映像を撮影することでコロナ禍であっても実施可能な方法で活動の成果を発表する機会を作る。
2	3月20日	団体の活動・発表の様子を撮影する 回答団体　２組１４人	団体の映像を撮影することでコロナ禍であっても実施可能な方法で活動の成果を発表する機会を作る。

事業活動

事業名	ともしびの夕べin白井		
対　象	一般		
参加人数	延べ１４３人		

事業の課題と目標

課　題

・東日本大震災から令和４年３月で１１年が経過し、当時の記憶が風化しつつある

・地震などの自然災害について常に備えておく必要がある

・白井市住民同士の交流をはかる場が少ない

目　標

・白井市内の各地に紙とうろうを並べ、東日本大震災犠牲者に追悼の意を示す

・東日本大震災当時の様子について知ることで、災害に対する危機感を高める

・児童や公民館利用者にロウソクの風よけを作成してもらい、地域住民の交流をはかる

期　間	令和３年４月～令和４年３月	回　数	１１回
場　所	西白井複合センター、白井駅前梨の泉、三本松公園		

事業参加者への配慮等

・実行委員が活動しやすいように情報の共有に努める。

・実行委員の取り組みたいことが実現できるように、相談先等の情報を提供する。

・運営がスムーズにできるよう、情報共有に協力する。

事業の成果（課題や目標に対して）

・「ともしびの夕べin梨の泉」や「ともしびの夕べin桜台」の活動を再開することができて良かった。

・「ともしびの夕べin梨の泉」は雨天のため改札前通路での開催となった。

・ブースでの出展は中止となったが、まちサポひろば出展に向けた取り組みも充実したものだった。

・３月のメインイベントはまん延防止等重点措置が実施された影響で中止となった。

・次年度は３月にイベントができなくても、より充実した活動ができるような事業計画を立てる予定である。

備　考

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	4月6日	定例会議 3月ともしびの夕べの反省とともしびの夕べin梨の泉の計画 参加人数　５人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。
2	5月18日	ともしびの夕べin梨の泉 白井駅改札前通路にて紙とうろうの点灯 参加人数　５０人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。
3	5月25日	定例会議 ともしびの夕べin梨の泉の反省 参加人数　５人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。
4	7月27日	定例会議 まちサポひろばへの参加検討 ともしびの夕べin桜台の計画 参加人数　５人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。
5	9月28日	定例会議 ともしびの夕べin桜台の計画 参加人数　５人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	事業のねらい
6	10月28日	定例会議 ともしびの夕べin桜台の計画 参加人数　５人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。
7	11月27日	ともしびの夕べin桜台 三本松公園にて紙とうろうの点灯 参加人数　４８人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。
8	11月30日	定例会議 ともしびの夕べin桜台の反省 まちサポひろば出展計画 参加人数　6人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。
9	12月28日	定例会議 ともしびの夕べin白井の計画 まちサポひろば出展計画 参加人数　5人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。
10	1月25日	定例会議 まちサポひろばの延期報告 ともしびの夕べin白井の中止決定 次年度活動計画 参加人数　5人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
11	3月22日	定例会議 まちサポひろば出展報告 次年度活動計画 参加者　4人	東日本大震災犠牲者に追悼の意を示すと共に、 地域活性化をはかる。

事業活動

事業名	レクホール開放		
対　象	18歳以下の子どもとその保護者		
参加人数	延べ７５人		

事業の課題と目標

課　題

・コロナ禍の児童館では、運動遊びができない。

・新型コロナウイルスによる新しい生活様式の中で安心安全な事業をおこなう。

目　標

・広い部屋で、普段児童館ではできない運動を楽しむ。

・運動遊びを通じて、異年齢での交流を推進する。

期　間	令和３年８月～令和４年３月	回　数	3回
場　所	レクリエーションホール		

事業参加者への配慮等

・入室時の手指消毒、検温、マスクの着用（運動時は外す）の徹底。

・運動をするにあたり、怪我のない様注意し見守る。

・使用した道具類は、アルコール消毒する。

・室内でも暑いので、水分補給を呼び掛ける。

事業の成果（課題や目標に対して）

・児童館では運動遊びができないので、楽しんでもらえた。

・夏休みは外が暑いので、室内での運動遊びができてよかった。

・長期休みの巡回で来館した小学校の先生とも遊ぶことができて、親睦を深めることができた。

備　考

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	8月10日	レクホール開放 ボール遊び、バドミントン等 参加人数　子ども　１８人 　　大人　　７人	広いレクホールで体を動かして遊んでもらう。
2	1月5日	レクホール開放 ボール遊び、バドミントン等 参加人数　子ども　２１人 　　大人　　９人	広いレクホールで体を動かして遊んでもらう。
3	3月30日	レクホール開放 ボール遊び、バドミントン等 参加人数　子ども　２０人 　　大人　　0人	広いレクホールで体を動かして遊んでもらう。

事業活動

事業名	夏休みスペシャルスタディ		
対　象	小学生～大学入学を目指す人		
参加人数	延べ１６人		

事業の課題と目標

課　題

・家では集中できず、勉強する場が定まらない子どもたちがいる。

・勉強がわからなくなったとき、相談することが難しい子どもたちがいる。

目　標

・自習ができる場所を提供し、学習の習慣を身に着けてもらう。

・学習ボランティアに相談することにより、勉強でわからない点を克服する。

期　間	令和３年７月～８月	回　数	7回
場　所	多目的室		

事業参加者への配慮等

・三密にならないよう、間隔を保った机の配置にする。

学習に困っている子は講師に相談してもらうようにし、自習を促してもらう。

事業の成果（課題や目標に対して）

・例年に比べると利用者は少なかったが、定期的に利用してくれる子がいた。

・学習支援事業を行っている「一緒に進もう会」の皆さんが、わからない点を教えてくださった。

・主に夏休みの宿題をするために利用されている様子だった。

備　考

事業報告

No	日　程	事業内容・方法等	事業のねらい
1	7月28日	自習室の開放と「一緒に進もう会」による 学習のサポート 参加人数　５人	多目的室を自習室として開放し、 学習の習慣を身に着けてもらう。
2	8月1日	自習室の開放と「一緒に進もう会」による 学習のサポート 参加人数　１人	多目的室を自習室として開放し、 学習の習慣を身に着けてもらう。
3	8月11日	自習室の開放と「一緒に進もう会」による 学習のサポート 参加人数　１人	多目的室を自習室として開放し、 学習の習慣を身に着けてもらう。
4	8月15日	自習室の開放と「一緒に進もう会」による 学習のサポート 参加人数　５人	多目的室を自習室として開放し、 学習の習慣を身に着けてもらう。
5	8月18日	自習室の開放と「一緒に進もう会」による 学習のサポート 参加人数　１人	多目的室を自習室として開放し、 学習の習慣を身に着けてもらう。

学習報告

No	日　程	学習主題・内容・方法等	事業のねらい
6	8月22日	自習室の開放と「一緒に進もう会」による 学習のサポート 参加人数　２人	多目的室を自習室として開放し、 学習の習慣を身に着けてもらう。
7	8月29日	自習室の開放と「一緒に進もう会」による 学習のサポート 参加人数　１人	多目的室を自習室として開放し、 学習の習慣を身に着けてもらう。